

# 薬務課業務DXに関する取り組み

NTT東日本株式会社 神奈川事業部

樋口 福原

2026.3.11

# 目次

1. ダブルワークの全体概要
  - －自己紹介&取組スケジュール
  - －薬務課-業務概要
2. 献血・薬物対策Gにおけるめざす姿と、現状課題、解決提案
  - －薬務課におけるめざす姿
  - －現状と課題
  - －案1～3における解決提案
  - －県民を守る本来業務の強化例
3. 並行して実施したご提案
  - －役員変更登録における業務改善
  - －県庁HPの更改による問い合わせ削減
  - －薬局配置状況の見える化
  - －電子処方箋の普及促進における課題の特定
4. まとめ



# 1. ダブルワークの全体概要

# 自己紹介



第一BI部  
地域基盤ビジネスG  
地域基盤ビジネス担当

ヒグチ ユウキ  
**樋口 祐紀**

出身地  
神奈川県

意気込み  
過去の経験を活かし、県庁業務の改善に向け頑張ります！



企画総務部  
企画部門  
経営企画担当

フクハラ タカヒト  
**福原 崇仁**

出身地  
滋賀県

意気込み  
神奈川県の魅力を県庁業務に触れながら沢山知りたい

# 取組みスケジュール

2025年9月～2026年3月までの期間

薬務課業務を実際に経験し、課題解決に向けたDX検討・ご提案を実施



2026年3月  
最終検討—ご提案

最終的な課題解決に向けた提案検討を実施



2026年1月～2月  
詳細—業務把握

実務に触れた上で詳細課題をヒアリング、解決提案を検討



2025年10月～12月末  
経験

献血・薬物対策Gの麻薬取扱者免許事務にて実務を経験し、課題検討



2025年9月  
理解

献血・薬物対策G、薬事指導G、生産指導Gにおいて、主業務と課題をヒアリング

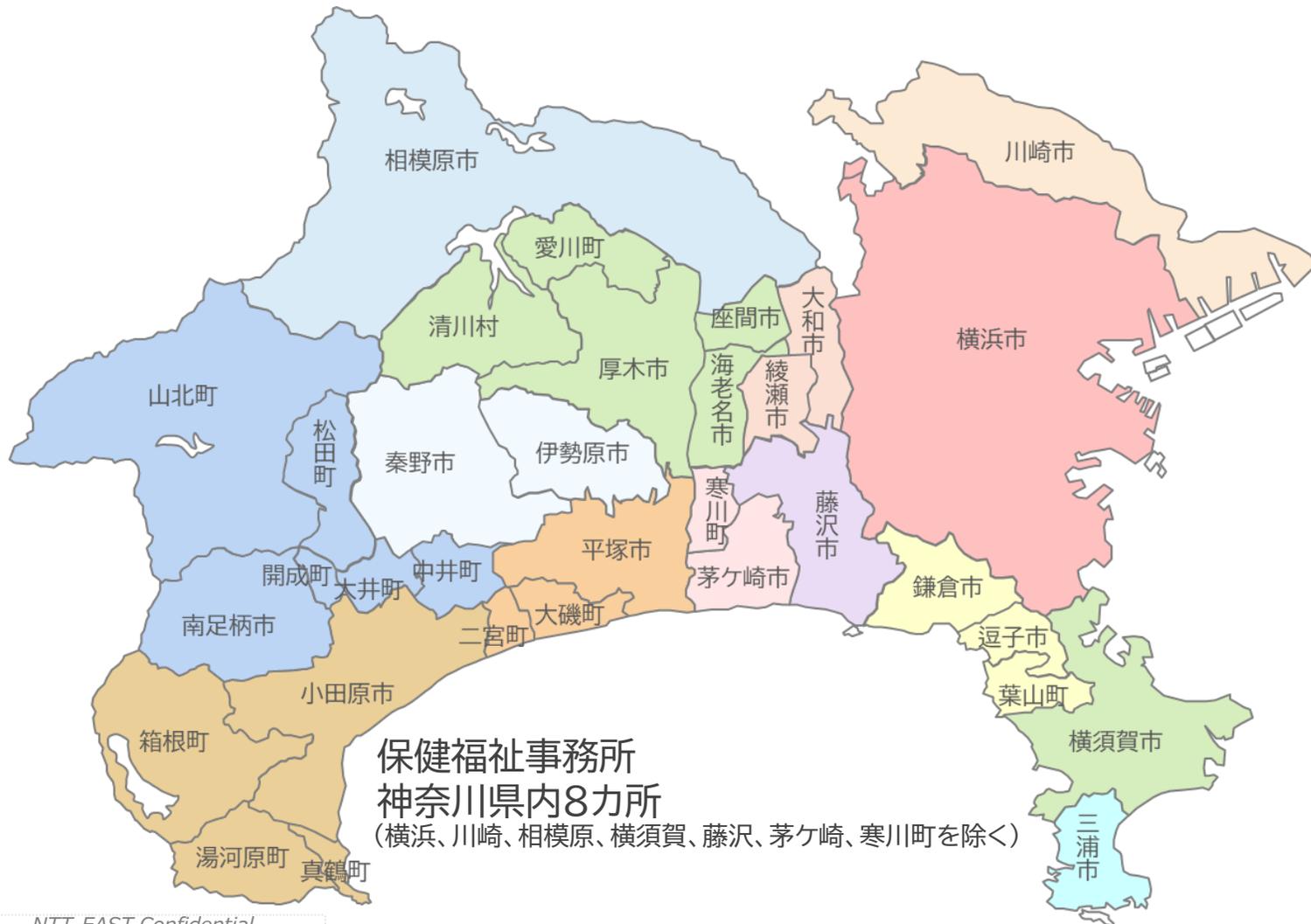


# 薬務課－業務概要



理解

薬務課は献血・薬物対策G、薬事指導G、生産指導Gの3グループにて構成。  
保健福祉事務所等と連携しながら、県内の薬事関連業務を遂行している



保健福祉事務所  
神奈川県内8カ所  
(横浜、川崎、相模原、横須賀、藤沢、茅ヶ崎、寒川町を除く)

## 献血・薬物対策G(16名)

- ・献血推進、啓発
- ・薬剤師免許、麻薬取扱者免許の業務
- ・薬物乱用防止啓発
- ・薬物相談 等

## 薬事指導G(12名)

- ・医薬品医療機器法の施行
- ・薬剤師確保の対策
- ・電子処方箋の普及促進 等

## 生産指導G(13名)

- ・医薬品等の製造販売・製造業の許可、登録
- ・毒物劇物製造業および輸入に関する業務
- ・毒物劇物取扱者試験 等



## 2. 献血・薬物対策Gにおける めざす姿と現状課題、解決提案

# 薬務課におけるめざす姿



ご提案

薬務課の業務DXにより、薬務課、保健所、申請者の3者間の業務効率化を実現し、県民を守る本来業務へ人と時間を振り向ける。

薬務課  
業務DX



保健所  
業務効率化



申請者  
業務効率化



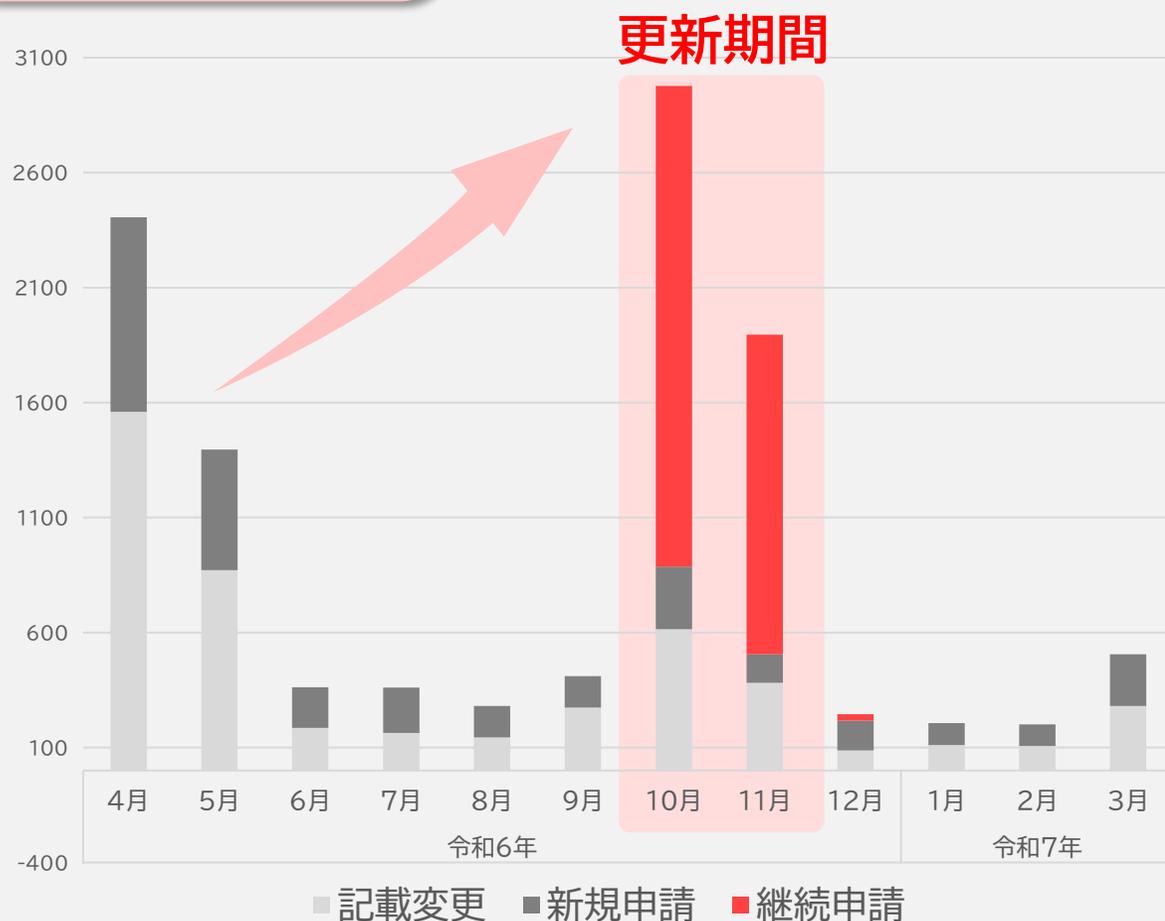
県民を守る本来業務の強化

- 取扱施設の監視指導
- 薬乱防止に関する啓発の高度化
- 薬物相談・支援体制の強化
- 献血啓発・県民参加型施策へ注力
- 県民への分かりやすい情報提供

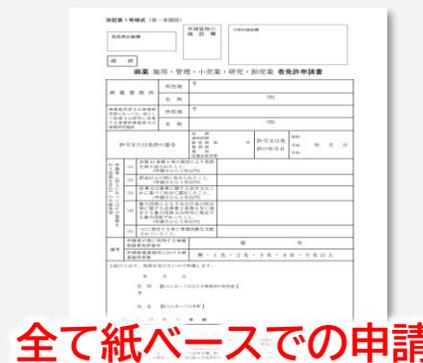
# 麻薬取扱者 登録業務の現状と課題

年間約**1万5千件**の各種登録を実施しており、全ての申込が紙ベース。  
また、更新期間である10月～11月期が最も稼働逼迫となる

## 年間の処理稼働



## その他の課題



# 案1: 統括プラットフォーム構築



ご提案

薬務課、保健所、申請者の三者を統括するプラットフォームを構築し、三者の優先課題に対応し、業務の効率化と利便性向上を同時に実現する。

三者の優先課題と改善イメージ(案)





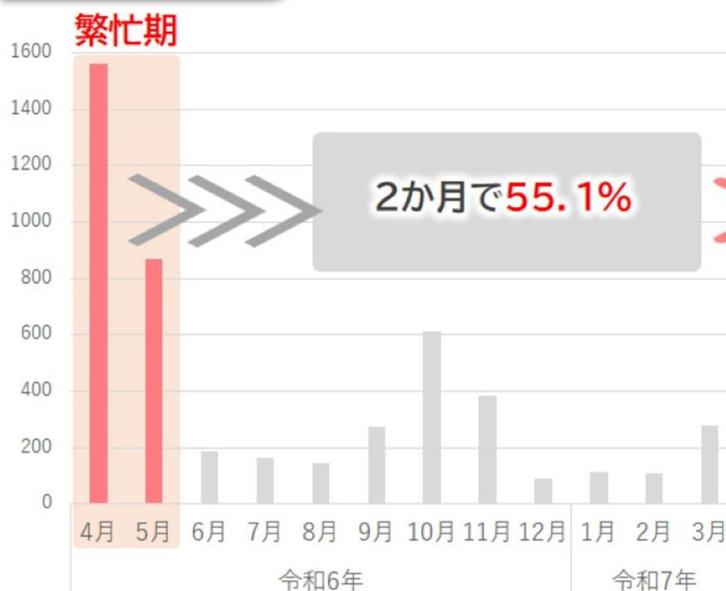
# 案3:DXツール活用

年間約4,000件発生する記載事項変更に対し、従来の稼働偏りを可視化リアルタイム可視化ツールにより、足元の稼働管理を可能とする

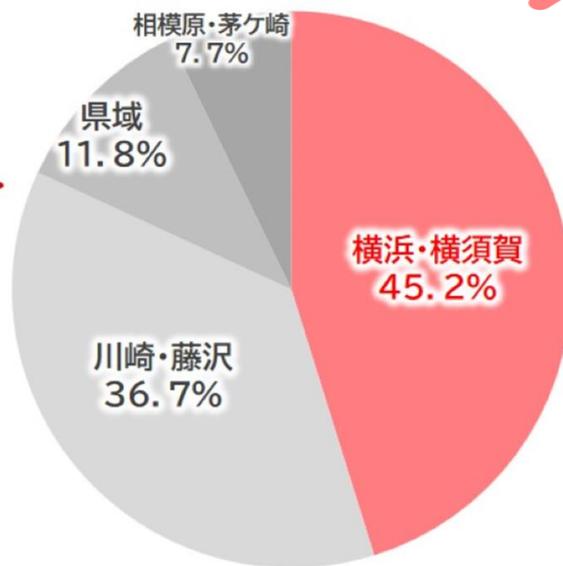
## 記載事項変更に伴う業務稼働について

年間約4,000件発生する記変処理の稼働平準化に向け、区域単位での洗出しを実施。

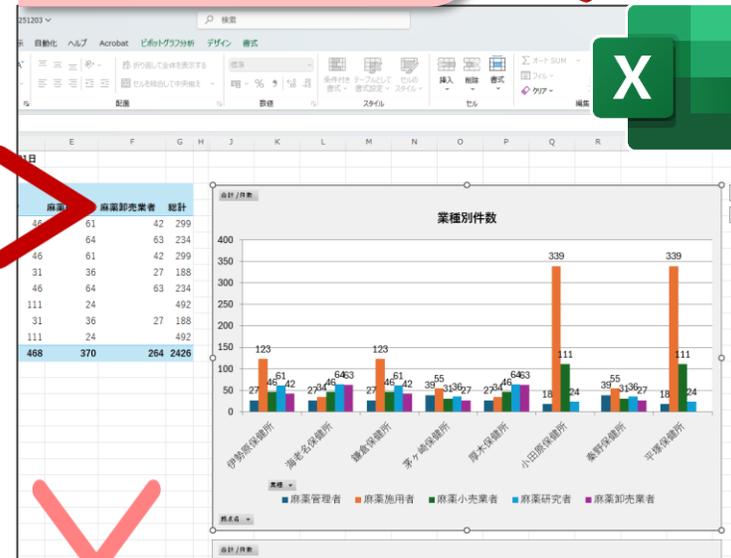
年間の稼働推移



繁忙期の内訳



可視化ツール



リアルタイムで可視化し稼働調整

# 効果と実行性を踏まえた今後の方向性

全てを包括する案1を実施することで大きな効果を期待できる一方、ハードルが高い項目もあるため、実現性が高い取り組みからスタート

課題解決案	難易度	コスト	効果	関係者	関係者 (詳細)	想定 期間	解決案 包括範囲
案1 統括プラットフォーム構築による ストレスフリーな免許申請・発行	高	高	高	多	県民 県職員 保健所等職員	中長期 (～約5年)	複合 (案2・3を含む)
案2 OCR/RPA活用による 紙と稼働の削減	中	中	中	多	県職員	中期 (～約1年)	単体
案3 稼働可視化ツール活用による 稼働平準化	低	低	低	小	県職員	短期 (～約3ヶ月)	単体

ステップアップ

# 県民を守る本来業務の強化例 (薬乱防止啓発)



ご提案

近年、誤った情報の流通により若者の大麻乱用が急増。力を入れて啓発を実施するも効果測定が難しく、発信中心の啓発となっている

- 従来の啓発活動 -  
ポスター等の  
発信中心の啓発

- 目指すべき啓発活動 -  
対象者像に合わせた  
包括性のある新たな啓発

学校からの申込時、紙ベース  
のアナログ運用となっている

薬乱防止啓発  
教室の実施



啓発物品の配布

県HPやポスター  
による啓発 等

街頭  
キャンペーン

神奈川県



VR体験



AR化

- ・薬物利用の誘いを断る追従体験
- ・薬物を使用した数十年後の姿を可視化  
⇒納得感のある啓発へと活かす

リアルタイム  
相談PF

- ・24時間、薬物利用に悩む人が集まる  
匿名参加型プラットフォームを作成



# 3. 並行して実施したご提案



年間約**1,000件**発生している役員変更届について、並行して運用フローや様式見直しによる抜本的改善案を提案

## 役員変更登録における業務DX提案

申請フォーマット、運用フローの見直しにより、小売業者、保健所、薬務課3者の業務改善が可能であると想定。



既存様式を改訂し、薬務課へ直送可能とすることで申請者、保健所、薬務課の業務改善につながる

運用体制の見直しで削減可能



とはいえ、

### 課題

庁内の運用改善のみでは改善できなく、時間を要す

だからこそ、



並行して  
チャレンジ

# HP更改による問い合わせ削減(生産指導G)



県民からの問い合わせに対する稼働削減や、県民の利便性向上を意識したUX/UIの課題に対するご提案を実施

## 課題をヒアリング

## 各種UX課題をご提示

神奈川県 Kanagawa Prefectural Government

ホーム > 産業・働く > 業種別情報 > 医薬品・医療機器産業 > 医薬品・医療機器産業の随時提供情報 > 医薬品等製造販売業・製造業許可等/医薬品等製造販売承認

### 医薬品等製造販売業・製造業許可等/医薬品等製造販売承認

よくみられているページ

- 神奈川県公立高等学校入学者選抜
- ツキノワグマ情報について
- 令和7年度公立中学校等卒業予定者の進路希望の集計結果
- パスポートセンター
- 令和7年度共通選抜学力検査問題

県庁の広報

神奈川県公式動画

かなチャンTV

1. 情報量が多すぎて視認性が低い
2. 情報の構造化が不十分
3. ユーザータイプ別の導線がない
4. オンライン申請の案内が分かりづらい
5. スマートフォン対応が不十分

神奈川県

### 医薬品等製造販売業・製造業許可等 医薬品等製造販売承認

初めて申請する 変更申請 変更届 オンライン申請 よくある質問

申請の流れ

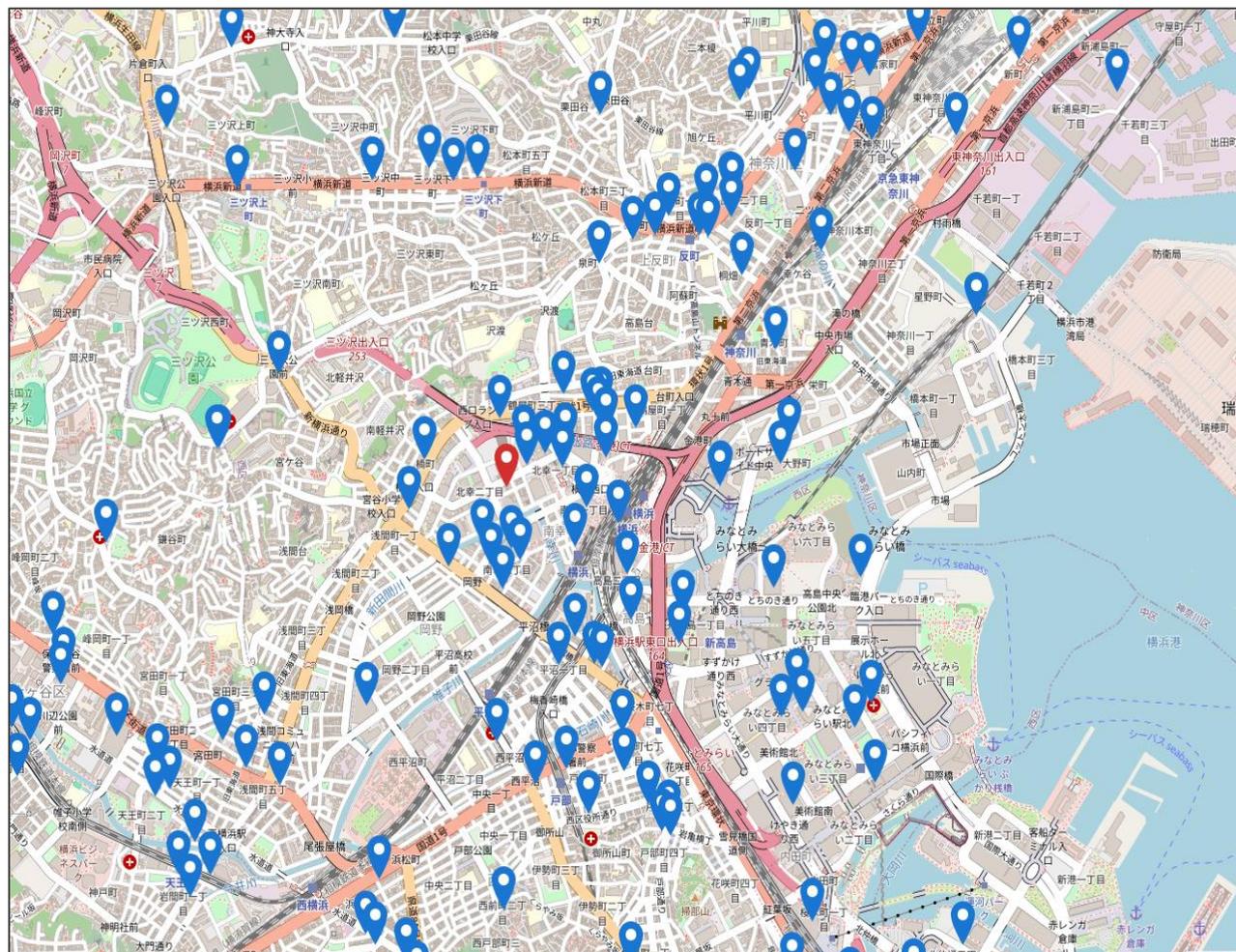
事前相談 > 確認 > 提出 > 受領 > 許可

# 薬局配置状況の見える化(薬事指導G)



ご提案  
優先度(高)

## 県の薬務行政を検討する際の基礎資料として、県内の薬局配置状況のマップ化をご提案



**薬局 横浜西口店**

神奈川県横浜市

営業時間等の付加情報あり

月	9:00-19:00	火	9:00-19:00
水	9:00-19:00	木	9:00-19:00
金	9:00-19:00	土	9:00-13:00
日	定休日	祝	定休日

# 電子処方箋の普及促進(薬事指導G)

電子処方箋の更なる普及促進に向け、真因分析を行い課題を特定  
実際に利用するユーザー(県民)を具体化し、アイデアをご提案

## 啓発課題をヒアリング

早い人ははじめてる、<sup>いい</sup>e医療  
電子処方せん



急な子どもの通院付き添いにも安心。



「電子処方せん」を利用していると、他の医療機関・薬局で処方・調剤された薬も、医師・歯科医師・薬剤師が確認できます。どんなパパ・ママにもやってくる、子どもの急な怪我や病気。どちらかが把握できていなかった薬があっても安心です。



詳しい情報は「厚生の働きかたホームページ」をご覧ください。

電子処方せん



## ユーザー目線での課題とアイデア

### 電子処方箋の啓発における改善提案

県民への電子処方箋利用が十分に浸透していない理由として、以下の3点が要因であると想定。啓発促進に向け改善案をご提案する。



メリット…?  
デメリット…?

ユーザ思考に  
合わせた啓発



ユーザビリティ  
の強化



ターゲット層  
の可視化

# 4. まとめ

# 薬務課業務DXにおけるポイント



ご提案

ダブルワークを通して学んだDX推進のポイントは以下3点  
県民の利便性向上を意識し、DXの木を大きくしていく足掛かりとしたい



## ● 本質的な課題特定

既存システムありきでの課題となっていないか確認し、課題の根底を特定する

## ● 関係者の整理

全体像を可視化し、関係者全てにおけるDX化となっているかを検討する

## ● アイデアの発散

特定した課題の解決案を、様々な角度から制約を除いて実施し、求めるツールが実現可能かDX視点で検討する